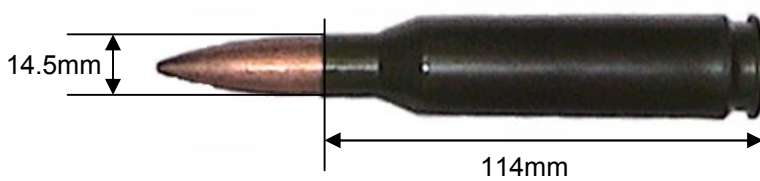


銃弾の表記について

1. 口径と薬莢の長さ

NATO結成以降、各国間の弾薬識別のためにスタンダード表示法として、「口径 x 薬莢の長さ」を採用するようになった。例えば、14.5mm x 114 は、弾丸の口径が14.5mmで、薬莢の長さが114mmを示す。

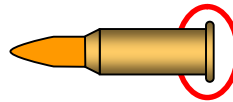


7.62mm NATO (.308NATO)

7,62mm NATOとは、NATO標準弾のことで、口径7.62mm x 51を意味しており .308はインチを表す。

7.62mm x 54R

表示の最後にRと記載されているのは、弾薬の後端が、薬莢後端直径より大きく突き出たリムになっていることを示す。



30-06 (7.62mm x 63)

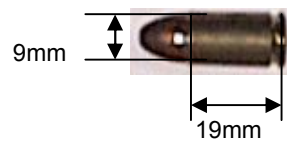
アメリカのM1、M2ライフル等に使用され、30は、30/100インチ口径を意味する。06は、1906年設定を意味する。

2. 弾丸の形状

弾丸の形状には、下記の代表的な種類がある

RN(Round Nose)型

先端が丸く成形されており殺傷力大きい。9mm x 19



S(Spear)型

流線型で先が尖った尖頭型。高速で風の影響が少なく、安定して精度が高く貫通力を重視した弾丸。



FN(Flat Nose)型

先端を平らに成形した弾丸。弾丸の持つ破壊力を効果的に活かしている。



3. 弾丸の種類について

同一の銃を使用してもその弾丸の種類により破壊力が異なる。

FMJ(Full Metal Jacket)

銅をベースとした合金(ギルティング・メタル)で被われたブレット(弾頭・弾丸)を言う。

命中後にバラバラにならず、軍用弾はすべてこれに統一されている。

Ball (普通弾)

FMJの中で、一般に使用される弾薬。弾芯に金属メッキが施され、命中後も変形しにくい構造を持つ

MSC (Mild Steel Core)

FMJであり、中に軟鉄を使用している。

LCSJ (Lead Core Steel Jacket)

鉄製のジャケットの中に鉛を使用している。

SCSL (Steel Core Steel Jacket)

鉄製のジャケットの中に軟鉄を使用している。

Incendiary 焼夷弾

燃焼しやすいターゲットに対し使用するもの。弾頭内部に燐化合物を充填してある。

AP(Armour Piercing) 徹甲弾

対装甲車両用で使用され貫通力に優れる。弾芯前方に鉛とアンチモニーの合金を充填。

あるいは鉄鋼製、タングステン・カーバイト製の弾芯を持つ。

API (Armour Piercing Incendiary) 徹甲焼夷弾

徹甲弾と焼夷弾(弾頭内部に燐化合物を充填し燃焼させる)を組み合わせたもの。

JSP(Jacketed Soft Point)

弾丸の形状はS型RN型があるが、命中時に深い侵入力と先端部が潰れてきのこ状に膨張する。

通常口径の2倍の威力がある。

JHP(Jacketed Hollow Point)

弾丸先端を切り落としたような形状を持ち、命中時の深い侵入の際にきのこ状に膨張し、大きなダメージを与える。

